

名古屋 石田学園報

第7号 平成8(1996).10.2

名古屋明德短期大学
星城高等学校
星城中学校
星の城幼稚園
名英予備校
名英図書出版協会

『小さな実践、大きな志』

理事長・学園長 石田正城

昨年3月末に「松下政経塾」の副塾長を務められていた上甲見氏にご来校をいただいた。その折の感想を今回出版された「志高く生きる」一致知出版にご紹介していただいたので転記いたしました。

松下政経塾での15年間の実践を通じて真の人間教育を語っていただき、本学園の教育方針に一層の確信を得ることができました。

——私塾こそ教育の原点という視点で 進められる人間教育——

縁あって、愛知県にある学校法人名古屋石田学園の理事長さんと知り合った。実は、この理事長さん、校長先生でもあるのだが、松下電器美術苑の苑長さんの義弟である。そんな関係から、二人そろって松下政経塾に見学にくられた。

同業のよしみ、私も機会があったら、石田学園の学校を見たいと思っていた。「念ずれば花ひらく」ではないが、その思いがあまりにも早く実現した。

今週、名古屋で二回の講演があり、出かけた。しかも講演が二回とも夜に開催されたため、昼間の時間が空き、ゆっくりと石田学園を見学させていただくことができたのである。

星を仰いで生き、名古屋城を愛した創設者がなづけた星城高校、星城中学、この二つの学校が石田学園の中心的存在。ほかに予備校もあれば、短期大学、幼稚園もある。愛知県では代表的な私学であると聞いた。亡き創設者は、小学校卒業後、郵便局で働きながら学ぶところからスタートし、ついには早稲田大学を卒業した経歴をもつ。第二次世界大戦後すぐ、この学校の前身となる英語塾を名古屋市内に

開いた。私塾こそ教育の原点であるとの考え方に立ち、すぐれた人間教育を進めてきた。いまは長男氏が経営をまかされている。私が知己を得たのも、この人。石田校長先生自ら、ホテルまで迎えにきていただいた。車で名古屋市に隣接している豊明市に向かった。高速道路の標識を見ていると、岡崎市、知多半島などの表示がある。「学校は知多半島の付け根にあると考えてください」、校長先生が教えてくれる。「この道路の二階に第二東名が走る予定です」と説明してもらった道は、ずいぶん混み合っていた。

やがて幹線道路を外れて、畑の側を走る田舎道に入る。目の前に本格的な野球場が現れた。星城高等学校の野球場だ。大勢の野球部員が練習している。

昨日の愛知県予選では、ベスト4に残ったほどの実力を有している。私のひいきとしている阪神タイガースの若手に鮎川という選手がいる。昨年、やっとレギュラー入りした選手だが、この学校の卒業生。学校のパンフレットに紹介されているほどだから、自慢の一人なのだろう。

この学校では、スポーツにも力を入れている。柔道、剣道は男子の必須科目。弓道は女子の必須科目になっている。当然のようにこれらの種目に限らず、スポーツはレベルが高い。全国大会に出場する機会も多いようだ。ところが、全国大会に出場するに際して、カンパが集まるのは野球だけとか。その他のスポーツでは、全国大会に出ても、またそこでどんなに活躍しても、誰も注目してくれない。高校野球にあらざれば、スポーツにあらざるような風潮を、校長先生は嘆いている。

——知識を増やすだけが教育ではない——

静かな住宅地のなかに、学校が見えてきた。全体に煉瓦色の建物が多く、しかもデザインがなかなか

『第26回オリンピック・アトランタ大会出場者激励会を終えて』

しゃれている。男子部、女子部に分かれた校舎、さらに中学校、そして私塾のよさを教育のなかに取り入れた仰星館の各校舎、四面のグラウンド、二つの体育館、トレーニングセンター、四百四十五席の多目的ホールをもつ石田記念館。春休みで生徒の姿をほとんど見かけることができないが、磨き上げられた学校の雰囲気は伝わる。

石田記念館の玄関に立つと、事務局の幹部が私を迎えてくれた。そして応接室に通された。幹部の人たちが次々に部屋に入ってくる。そして校長先生が私を紹介してくださったところまではよかったが、一時間ほど話をしてほしいとの突然の申し出である。松下政経塾のめざす教育について、一時間ほど話をさせていただいた。目の前に座っている人たちは、いずれ劣らぬ教育界の大ベテランであると言わんばかりの面構えで、私を圧倒する。こちらも負けじと、つつい力が入って、「知識を増やすだけが教育ではない。知識は道具にしかすぎない。知識を使いこなす人間そのものの価値を高める教育をしなければならない」と持論を披瀝。さらに、「サリン事件などは現代教育のひずみの現れである。どんな高度の知識を身に付けても、それを使いこなす人間そのものを高める教育をしていないから、せっかく習得した知識や技術が悪用されてしまう」とまくしたてた。教育界の重鎮ともいべき先生方は、おおむね賛意を表してくださった。そしてその後は、学校見学。まず、女子部の校舎で歓迎昼食会に参加した。といっても、私の歓迎ではない。この日、アメリカの高校の生徒たちが交流のために来校したので、日本人の生徒たちがそれぞれ家で料理をつくってきて、もてなす会に便乗させてもらった。

石田学園の各学校は、海外の学校との提携、交流がきわめて活発である。オーストラリア、カナダ、アメリカ、韓国などに十の姉妹校をもつ。交換留学生の制度もある。高校の修学旅行は韓国だ。

昼食後、すべての施設を見せてもらった。そして感心したことは、どこもかしこも磨き上げられていることである。教室はもとより、寮の部屋、廊下、風呂、トイレ、すべて。年に一、二回は、全校の生徒がクラス単位に順番に合宿する施設がある。ここは飛び抜けて磨きがかかっている。机も椅子も、定位置がマークされていて、前から後ろまで一直線に並べられている。トイレのスリッパも、寸分、曲がっていない。机は購入して十五年以上経過しているそうだが、落書きなどまったくない。磨き上げられた学校だ。



今年にはオリンピックイヤーです。第26回大会がアメリカの地アトランタで開催されます。

今回のこれへの参加者は499名という、これまで日本が参加したオリンピック大会で、最大の人数を送り込むことになっています。その中で愛知県に何らかのかかわりを持っている役員選手の数も28名と聞いております。その中の3名（女子バスケットボール2名・女子ソフトボール1名）が、星城高等学校の卒業生で占められているということは、本学園に取っても大変名誉なことであると同時に、空前絶後のことであろうかと思います。

その3名の激励会が去る6月12日名古屋ガーデンパレスで盛大に行われました。代表選手3名を始めそれぞれの両親、約50名の来賓、学園各部門の教職員、学園にかかわりのある方々、卒業生・在校生をトータルすると約550名の出席をいただきました。

3名の選手が異口同音に「星城高等学校で学んだ『感謝の気持ちを忘れずに』というご指導のおかげで、今回のオリンピックという、世界のひのき舞台へ参加できる栄誉を得ることができました。今日の激励会を開いて下さった多くの方々に、心からお礼申し上げるとともに、アトランタでは星城高等学校の卒業生の一人として、全力で頑張ってきてます。」ということをお願いしておりました。

この会のハイライトは、3名の選手に「寄せ書き」を渡したところではなかったかと思えます。それは国旗「日の丸」に、ご参加いただいた皆様、現役のバスケットボール、ソフトボールの選手の方々が思い思いに激励の言葉を書いていただき、理事長と現役選手の代表から、それを手渡してもらったことを指しています。司会者はこんな言葉で結んで

＝21プロジェクトから＝

くれました。「宿舎で無事を祈り、ベンチでガッツを与え、応援席で打ち振られて勝利を引き寄せる、そういった気持ちをこめております。勝利の暁にはぐっと胸の前に広げていただきたい。」

とにかく素晴らしい会でした。ここまで持ってこれたのは、理事長を先頭にして学園が総力を上げて取り組んだ結果だと思っています。

なおオリンピックは、7月19日から8月4日まで開催され、女子ソフトボールで日本はメダルまであと一歩の4位となった。

又、女子バスケットボールも7位と大健闘、特にバスケットの村上選手は予選リーグ最終戦のカナダ戦で20得点を挙げ逆転勝利に結びつけた。

又、7位決定戦のイタリア戦でも前半4分に村上選手の3点シュートで波に乗り、イタリアに81-69で勝ち、日本の勝利に大きく貢献。チーム一の小井ながらフリスローの成功率でも世界のトップと大活躍をしました。選手の大健闘に拍手を送りたいと思います。

★『高校総体』

今年も連続の全国高校総体(インターハイ)出場

本年も厳しい県大会で優勝を飾り、憧れのインターハイに次の5部が出場しました。

ソフトボール・剣道・レスリング・柔道・水泳部戦績は、以下のとおりです。

- ・レスリング…団体2回戦敗退。
個人58KG級ベスト8(山本伸行)
- ・女子ソフトボール…団体2回戦敗退
*優勝校に0対6
- ・女子剣道…団体予選敗退
- ・男子柔道…団体予選敗退
- ・水泳…男子100m平泳ぎ第6位(栗本直博)

*第64回日本高等学校選手権水泳大会兼

★『高校野球』

夏の高校野球県予選でベスト8!!

第78回全国高校野球選手権大会愛知県予選に於いて、星城高校は順調に勝ち上がり、4回戦では強豪豊田大谷高校を破りベスト8に進出した。

準々決勝では杜若高校と対戦、8-4で惜しくも敗れはしたが、2年生が主力チームだけに来年こそが期待されます。

21世紀をめざす学園の将来計画の一環として、高度情報化社会のなかで名古屋石田学園がコンピュータをどのように活用していったらよいか、昨年12月の理事会の話題を受けた企画室が意見交換会を設営したのが発端です。年明けから会合の準備に着手し、複数の部門からパソコンを含むコンピュータ作業やシステムに係る経験の豊富な人や担当業務から器械利用に詳しい人達に集ってもらい、意見を聴くことにしました。1月31日、珍しい大雪の朝、短大会議室でメンバーの顔合わせとブレンストロミングで第1回の会合がスタートしました。

全国的にみて多くの大学がコンピュータシステムを導入し、図書館の資料検索は当然のこと、教員の研究照会を始めとする大学案内を発信しています。

また、学生の受講出欠などの教務管理やキャンパス各棟のLANが活用されています。更にインターネットの利用が急速に進んでいる情勢を踏まえ、本学園として何が出来るのか、本学園として何から着手したらよいか、現状認識を共有することから話し合いを重ねてきました。

当初「21世紀を目指す学園のコンピュータ活用を考える」とした会議の呼称を「21プロジェクト」と短縮し、2/28、3/28、5/19と4回の討議を経て、①システムを作る ②データベースを構築する ③情報発信する ④ソフト開発を研究する に焦点が絞られてきました。当面、予算化されている短大のコンピュータ更新に関連して、ネットワーク構想図が提起されました。情報発信できるシステム作りに向けて、各部門もこの短大の絵を参照して構想図を描くことになり、この取組みについて5月18日の理事会で報告をしました。

コンピュータの積極的活用について理事会のご理解をいただきましたが、当面は短大の機器更新を進める過程で、順次具体化については研究をするということで、生徒学生数減少という危機的な兆候の中で一挙に巨額の投資には慎重な判断を示されました。

21プロジェクトとしては、次年度予算編成に向けて、段階的な整備充実を図るために、具体性のある将来図を描き、引続き部門間の連携と学園の一体的な運営に資するシステム作りに知恵を出し合い、討議を重ねてまいりたいと思っています。(文責平岡)メンバーは下記の方々です。

今平・各務・北出・松本・出井・松尾・林・松田
石田直・石河・平岡<幹事>

＝短大で生涯学習講座オープン＝

平成8年度新規事業として、'96名古屋明德短期大学生涯学習講座オープンカレッジが夏休み中のキャンパスを利用して、7月29日から9月6日まで5週にわたって開講されました。

各部門の皆さんには広報リーフレットの配布を始め、電話での問合わせへの対応などご協力をいただき有難うございました。

7月に開催した2つの特別講座会と31講座を紹介するリーフレットの納品から、受講申込受付開始まで2週間余しかなく、密度の高い広報日程のなかで地元を始め近隣市町教育委員会生涯学習担当課のご協力や、知多地区県立高校長会、緑・港・南区小中学校長会並びに東海市小中学校長会などのご支援をいただきて広報してきました。更に東海市と近隣市町、名古屋市南部の名鉄沿線を重点に新聞折込みチラシを配布したほか、東海市を中心に大手・中堅企業の事業所を訪問してPRしたり、短大近くの住宅へ戸別にチラシの投入れを行ってきました。

特別講演会「いじめの神経症」では、具体的な事例を示した解説がOHPを使って判り易く好評で、講師を引止めて相談される方が数名あり、受講希望も増えました。また「異文化の比較理解」には小中学校教員の来聴も多く、幅広い層の参加者から好評を得ました。かくして7月29日、ワープロ、上級英会話、エアロビクス、インドネシアの文化、細井平洲、日本の児童文学、フラワアレンジメントの7講座からスタートしました。受講応募者が僅少で開講を見送ったものを除いて、25講座に延べ468人の受講者の参加がありました。この原稿の時点では第5週が始まっていますが、アンケートの中間集計では「満足・やや満足」の回答率が90%を上回っています。英会話は初級・中級・上級と海外旅行の4種とも申込数が定員を超え、ご希望に添えない方もありました。また小中教員を対象とした英語の教員も定員50名に達する盛況でした。このほか、初めてのワープロ・初級ワープロ・水彩画・着物着付・手話基礎篇・社交ダンスといった実技習得と楽しさを味わえる分野が20人を越す受講で人気を集めました。

また子供の心身症と神経症に20名を超す受講者を数えたのは、真剣に子供の問題に取り組んでいる保護者の方々の存在があり、期待された講座であったと思われる。受講者の数に関わりなく、皆さんが楽しかったと言って帰っていかれる姿に接するとき、担当者の苦勞も消える毎日でした。

*****『教学運営会議』*****

本年度第1回目のテーマは、「平成7年度の取組みに対し、どのような結果・効果があったか」

- ①もし不十分だったならば、どこに原因や問題点があったか
- ②今年度はどのようにカバーしていくか、のテーマで行われることになった。

昨年度は「学生生徒の減少を前提とした各部門(学校)の特色づくりの具体策」を課題に検討してきたが、残念ながら8年度は全学校で定員割れとなった。本年度第1回の会議は7年度の反省のうえに立って、各学校から発表がありその後真剣な討議が行われた。

★短大

- (1) 如何に読める安定的な受験者数を確保できるか
 - (2) 折角受験してくれた生徒を如何に確保できるか
- 具体的募集対策として◎指定校・特定地域を選定して高校訪問をする。特に○星城高校対策○関係の非常に深い高校への訪問○送ってもらえる手法・仕組みの開発○本学関係者の中で先方高校と人的なパイプのある高校訪問 ◎試験回数、試験方法、地方試験等手法を変えて行う。 ◎カリキュラムの変更・ポイント制の導入…半期制への移行。 ◎12月終りにスカラシップ入試を行う。 ◎テレビによるCMの実行。 ◎歩留りアップ対策として手続きしたくなるような案内・内容・ツールなどの工夫。

★高校

7年度の取組みに対して結果的には8年度は盛り上がり欠けた。

8年度は◎教員の意識改革の推進 ◎急減期を乗り切るためには保護者の教育要請に応えるしかない。○「立派な人間」の育成・基本的マナーの徹底○単位不認定者を出さない指導○進学裾野を広げる指導

★中学

星城高校「仰星コース」に直結→進学校を目指す。◎男女共学による情操教育・国際教育によりリーダー教育を指向する。 ◎塾対策が一番大きなターゲット→全員による塾訪問。 ◎説明会が勝負。 ◎転編入による受入。 ◎実績を出すことで評価を得る→星城・仰星ブランドの確立。

★幼稚園

◎信頼出来る先生・信頼出来る園として、子供だけではなく親との信頼確立。 ◎通園区域の見直しとして緑区北部に募集活動を展開。

★予備校

◎先生・保護者に理解してもらおう為、指定高校の

訪問回数を増やす。◎生徒報告の徹底…月1回は必ず実行する。◎入試資料の勉強。

★事業部

◎資料分析…売上実績は従来自分で分析→今年度から統一ワークシートに入力→来年度からの営業対策とする。◎マルチメディア・ソフト関連の方向性をさぐる。◎利益の出ない代理店へは見本を送らない。◎来年度春…9年度入試ヒアリングテスト導入→合った教材を重点的にやる。◎小学校英語教育事情の調査。

以上各部門から発表がありフリートーキングが行われ、次の課題・問題点が出された。次回までに各部門において具体的解決策・実施方法等について提出することとなった。

1. 法人…「石田学園教育研究所」的なものの設置
2. 短大…短大の教員意識改革の具体的進行状況
3. 高校…高校教員の意識改革
4. 高校・予備校…予備校募集対策の協議
(星城高校から予備校への募集対策)
5. 短大・高校…短大・高校との一貫教育についての協議(開催記録)
6. 中学…募集の具体的戦略のまとめと効果
7. 幼稚園…

尚、第2回以降今回の報告をもとに次のテーマですすめていく予定です。

「何故定員割れをしたか、分析と対応策」

- ①将来の展望から徹底した討議
- ②全職員による生徒・学生募集

◆名古屋明德短期大学

◎「半期制への移行とカリキュラム全面的改定」

カリキュラムは、名古屋明德短期大学の教育方針を示す最も重要な規則の一つです。ここでは、本学の教育理念がきちんと具体化されています。

時代の変化、学生の要望に対応すべく、そのカリキュラムが9年度より大幅に改定されることになりました。中でも半期制への移行は最も重要な改定点であります。

半期制とは履修期間を前期(7月末)と後期(1月末)に区切り、単位認定を行う制度です。現在、学習は一年間を通して行われており、年度末に単位認定をしていますが、ややもすると冗長になり、学生の履修意欲の低下にもつながっているように思われます。半期制になりますと、メリハリのきいた中期集中型の講義が展開され、科目選択の幅も広がり、学生には、常に新鮮な教育体制となることでしょう。

これにより一年海外研修・9月卒業も可能となります。他にも、いろいろな工夫が取り入れられており、学生各自の個性的な履修計画が建てられるようになっていきます。

◎頑張れ、ソフトボール部！



多くの方々の熱い声援を受け、わが名古屋明德短大ソフト部はその試練を4月28日から、幸田町とばね運動場で受けることになった。期待にたがわず、新規加盟のわがソフト部は、2部Bグループで旋風をまきおこして全試合コールド勝ち、2部優勝決定戦も愛教大を破って晴れて1部入りの快挙を成し遂げた。しかし続いての大学選手権の第3代表決定戦は、刀折れ矢つきで中京女子大に勝ちを譲った。

振り返る5連戦の結果は、対静岡大12-1(本塁打小泉・野々山、3塁打：小泉・服部、2塁打：中村)、対愛知みずほ大18-0(3塁打：河内、2塁打：河内)、対名古屋大11-2(3塁打：住田、2塁打：小泉)、対愛教大5-4(本塁打：野々山、3塁打：村松)、対中京女子大0-4(3塁打：小泉)、相手に許した長打は中京の3塁打1本のみであった。

野々山主将は優秀選手に選ばれ、打撃15傑には野々山、住田、小泉、服部、河内各選手の5人、河合、上条両投手は投手部門で1、3位となった。

最後の中京女子大戦は壮絶であった。上条主線投手は右太もも付け根肉離れの激痛に歯を食いしばりながら投げた。2回3回と双方0。しかし力尽きたか4、5回で4失点。激痛の涙を流し、足を引きずりながらダッグアウトへ戻ってくるが、守備の番がくると人一倍大きな声を出し、いの一番にマウンドへ走っていく。その根性に私は幾度となく涙した。

チーム結成以来3か月。問題はまだまだ山積しているが、その後も青井監督のもと猛練習に励んでいる。頑張れ、ソフト部！

部長 後田 忠勝

◆星城高等学校

◎『進学の結果』

平成8年3月末国公立大学合格者41名

本年度の特徴は、推薦入試の定員と選考方法の変更、不況による受験大学数の減少という二つの傾向であった。その結果推薦入試の延べ合格数は前年に比較して若干減少した。

しかし、一方で新しい分野で合格を出すなど前進面もあった。例えば、三重大学や山梨大学などの国立大学の合格、関西大学法学部などへの現役合格、スポーツの技量を生かして法政大学などの合格と男子部としても大きく飛躍する土台をまた一つ切り開いた。

・主な大学の合格状況

北大1. 東北大1. 名大3. 名工大4. 三重大5

◎『今年も韓国から日本文化教育研修団来日』

今年も韓国の姉妹学園である東山学園女子部の群山女子商業高校と、男子部群山東高校が各々7月29日と7月30日に来日した。

女子部は職員9名・生徒55名、男子部は職員4名・生徒36名が星城高校の生徒達と名古屋城等を見学した。特に女子部の生徒は体験学習として茶華道を体験、校外学習として有松しほり会館での実習等、日本文化を体験し、各々二日間の日程を終え次の旅行地である奈良方面へ向かった。

今後ますます両国・両学園の交流は深まるものと思われます。

◆星城中学校

◎『漁村体験』

7月29日から31日までの3日間、星城中学校の2年生は静岡県賀茂郡南伊豆町の妻良に漁村体験に出かけた。

妻良に着いたその日に刺し籠網漁の仕掛けをし、翌日の朝に漁体験をした。すると、伊勢エビやサザエがたくさん網や籠にかかっており、大きな歓声が上がった。中にはサメがかかっていた班もあり驚いていた。

漁の他にも「ロープの結び方」「櫓漕ぎ」「あじの開き」を教えてもらい、生徒も積極的に取り組んでいた。夕食後には民宿の方と漁業や漁村の暮らしについて和やかに語らいをしていた。

生徒は班ごとに別の民宿に泊まっており、各民宿の方々にお話を聞くと、「今まで来た生徒の中で星

城中学校が一番行儀がいい。」「良くお手伝いをしてくれる。」と評判であった。ほとんどの生徒がまだ妻良に残りたいという気持ちが強く、退村式が終わってバスに乗り込み、民宿の方とお別れするときに涙ぐむ生徒もいた。

リーダー研修のために体験学習の準備や行事の運営は教員の力をいっさい借りず、生徒の代表である実行委員によってすべて行われた。一人ひとりがリーダーの厳しさを実感でき、また自分たちだけでできたという自信を持てたことであろう。今後実践力に富んだ学校生活を期待したい。



◆星の城幼稚園

◎『春の遠足』

5月10日(金)五月晴れの明るい日差しの中、親子で東山動物園に行きました。園児200名、保護者189名の参加者が星城高校バス9台に分乗し、豊明市文化会館を出発しました。

連休明けとはいえ、幼稚園の遠足が多く、ゴールデンウィーク並みの人出でした。到着後すぐに、クラスごとに記念写真を撮り、その後はお母さんと一緒に見学です。

リニューアルされた子供動物園ではうさぎを抱いたり、羊などにえさをやったりして小動物と十分に、ふれあうことができ、一番の人気でした。

また、たくさんの動物を見ようと、地図を片手に回るグループ・ねえ、ねえ、あのゴリラ、だれかに似てない?などと楽しそうに話しをしながら見るグループ・“お腹すいた”と早々にお弁当を広げるグループもあり、お母さん手作りのお弁当をおいしそうに食べていました。

退園時間を1時間延長し、親子で一緒に動物を見る時間を十分にとるようにしましたので、どのお母さんも「今までになくたくさんの動物を見ることができました」、「日頃はお兄ちゃんと一緒にですが、今日だけは私をひとり占めできうれしかったようで

す」などの声も聞かれました。

5月の1日を親子共々十分に楽しんだようでした。

◎『夏まつり』



7月27日(土)は快晴の暑い日でしたが、4時開門と同時にたくさんの親子がやってきました。ゆかたの一家、小学校のお兄ちゃん・お姉ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん連れもいます。今年は夏休み前から流行していた風疹や水痘になり、これなかった子供達も多かったようでしたが、園児・キラキラ生の他に未就園児70名も参加するなど約800名の参加がありました。2階体育室では名古屋女子短大のサークルによる人形劇、1階遊戯室ではビンゴ大会にカラオケ大会(今年度初めての試みでしたが参加者も多く盛況でした)。また保育室に何日もかかって作り上げたダンボールの迷路も今年初めての試みでしたが、なかなかの人気で友達同志や兄弟と一緒に挑戦する姿も見られました。園庭では模擬店、ヨーヨーなどの玩具や、駄菓子なども並び、思い思いに楽しんでいました。

フィナーレを飾るのは、先生・職員全員による和太鼓の演奏。夜空に響く太鼓の音やリズムにじっと聞き入っていました。準備や練習など大変でしたが、子供達の喜ぶ顔に来年もまたがんばろうという気持になります。

◆名英予備校

◎『今年度の重点課題』

(1)現状について

- ①生徒数は平成4年以来減少傾向にあり、歯止めが掛かっていない。
- ②入校者のレベルも7年度、8年度と低下傾向にある。

(2)目標

- ①小規模でも「良い予備校である」と評価される

予備校でありたい。

- ②安定経営が見込める体制作り。

(3)対策

- ①担当が生徒の将来を親身になって考え、生徒に対し常に真剣に接し続ける。
- ②本校が生徒に対し、どのように努力をしているかを保護者や高等学校関係者に伝え、理解してもらう。(「予備校通信」の毎月発行)
- ③業務効率のさらなる向上。

◆名英図書出版協会

◎『明日へチャレンジ』

平成9年中学校教科書改定に伴い、今年度は編集面で多忙極まる日々の繰り返しである。「英語の名英」を確実に伝承していくため、日夜奮闘中。

一方、調査を進めている新企画の1つ「小学校英語のための教材開発」では、後田先生のご配慮で、さる7月5日に愛知県の研究指定校を訪問し、研究授業を観ることができた。正式に教科として英語の導入が決まった訳ではないが、新しい教材市場の可能性は参観した授業の中でいくつか確認できたと思う。今後もアプローチを続けていきたい。

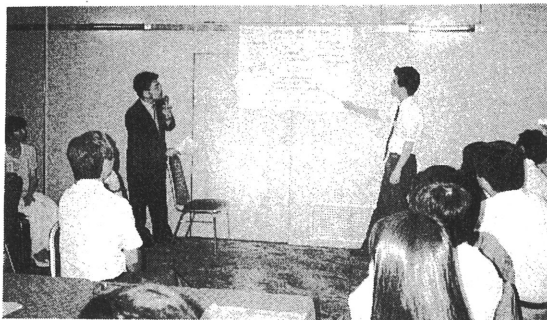
また、マルチメディアのなかでもインターネットの経済効果は誰もが注目するところである。今やそこへのアクセス方法はパソコンのみにとどまらず、ゲーム機、テレビでも可能になり、世間の関心は高まる一方である。教育現場でも同様で、事業部としては、それらの関心から教材開発へと調査、研究中である。

【第6回事務職員研修会】

全学園参加の第6回事務職員研修会が、7月24日(水)グランドスクエア・クレールにおいて、38名参加のもと終日にわたり行われた。

開会のあと、研修(1)として西川理事から「学校法人の置かれている環境と本学園の将来」について話しがあった。一旦休憩のあと研修(2)として、テーマ「好感度アップに取り組むー接遇の工夫ー」について、5つのグループに分かれグループディスカッションが行われた。

昼食のあと各グループの代表からグループ討議の結果として、接遇に関する現状、又それに対する改善案等について、B紙を使って活発な発表がなされた。そして西川理事・短大加藤教務課長より講評と



して、二人共“電話応対”に集中した感があり、もう一步突っ込んだ討議を持って欲しかったと感想をのべられた。

引き続き研修(3)で講師として近畿日本ツーリスト株式会社・前橋好春岡崎支店長をお招きして、「“大変な時代”に勝つための営業」をテーマに講演が行われた。

2時間ぶっとおしで話しをされ、精力的且つ自分の体験をもとに貴重なお話を聞くことができた。

常に新しい発想と企画力でもって岡崎支店を全国最優秀店に押し上げられた。

学校経営も「大変な時代」に突入しており職種は違っても共通した部分もあり収穫があったと思う。

5時からは隣りに部屋を移し懇親会が行われ、日頃あまり交流がない部門間交流が和やかな雰囲気のうちに行われ交流が深まった。

学園創立55周年事業完成!!

かねてより創立55周年事業の一環として進められていた工事が完成し、それぞれ次のような竣工式が行われた。

◎「星城中学校・星城高等学校増築工事竣工式」

星城中学校増築……地上3階建

星城高等学校増築……地上4階建

日 時…8年3月18日(月)

午前11時30分から13時

場 所…星城高校2階—神事・4階—直会

当日は星城中学校の卒業式終了後、中学校後援会役員にも出席していただき厳かに行われました。

各々教室増築により教育施設等も充実、今後一層中・高一貫教育効果の向上が期待されます。

◎「明德短大部室棟及びグラウンド整備工事竣工式」

日 時…8年4月1日(月)

午後2時30分から4時

場 所…明德短大部室敷地内

当日は午後2時から短大会議室に於いて、平成8年度の新任教職員辞令交付式が行われ、そのあと短

大・学園関係者出席のもと竣工式が行われました。

尚、竣工式終了後、グラウンド竣工セレモニーとして星城高等学校女子ソフトボール部と、短大ソフトボール部の交歓試合が行われました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

『石田理事長審議会委員に委嘱される』

石田理事長はこのほど、愛知県知事より愛知県私立学校審議会委員に委嘱されました。

この審議会は、私立学校法により設置されているもので、私立大学及び私立高等専門学校以外の私立学校等に関する重要事項について、県知事に建議する目的の会です。

学園表彰

平成8年度の学園表彰者は、次の通りである(敬称略)

勤続30年	沢田吉弘・横山 弘・入交美仁 田中陽子・浅井一英・平野恒章 中原雅一	以上星城高等学校
20年	伊東秀雄 石田英城 石田直城	星城高等学校 星城中学校 法人本部
10年	植松康張・神谷和利・富成崇文 近藤好紀 西村佳代 堀 益美	以上星城高等学校 法人本部 名英図書出版協会

前理事・評議員 浜島 重一先生ご逝去

“86年～94年”に亘って理事・評議員として本学園のためにご尽力を頂いた浜島重一先生(元豊明市長)が5月14日、午前5時28分87歳で亡くなりました。

星城高等学校開校前から地元の町会議員として格別のご援助をいただき、その後議長・市長にもなられ30数年間名古屋石田学園のために、ご助力を頂きました。ここに哀悼の意を表しご冥福をお祈り致します。

『編集後記』

今年度前半も数多くの行事等があった。中でも最大の行事はオリンピック・アトランタ大会出場者激励会だったと思う。一方生徒、学生数の減少により厳しい局面に立っている。来年度は、全職員による生徒・学生募集が大きなテーマになろうかと思う。